

タイ身体障害者協会へ対しての子ども用車椅子寄贈

車椅子贈呈式

2013年2月21日

場所 : Legacy Hotel

主な出席者 : タイ身体障害者協会副会長 Boonyan Saojan 氏、日本大使館岩間公使、石川浩一等書記官、当 NPO 小田謙介理事、相模女子大学小泉京美講師と日本からの大学生グループ。
車椅子を配布される3地区の代表の子ども達と父兄と職員、タイ身体障害者協会傘下の車椅子工場の障害者社員。

式内容 : 映像によるタイ身体障害者協会の活動紹介。

タイ身体障害者協会副会長 Boonyan Saojan 氏挨拶

日本大使館岩間公使のスピーチ

当 NPO 小田理事のスピーチ

訪問大学生グループによる寸劇（花咲かじじい、桃太郎）

地区代表の子ども達への車椅子配布



日本大使館 岩間公使



車椅子工場の障害者社員達

車椅子を配布された子ども達と家族



障害児施設とタイ身体障害者協会（APHT）車椅子工場訪問

Baan Nontapum 財団

7～18歳までの420名の障害者（手足など身体、視力、聴力あるいはその複数の障害）が暮らしているが、大半は孤児や家庭の問題で親元で暮らせない子ども達。小学生は168名で施設内での教育も行われており、障害の軽い児童は外の学校へも通学している。

施設を離れた後の仕事を見つけるための技術の習得の教育も行われており、子どもを引き取ってくれる里親制度も進めている。

この施設はタイでも最大規模であり、職員は130名。

施設内には数多くの大人用と同じタイプの移動用車椅子が見受けられる。

英国の教会や、Thai Wheel Factory 製の物やトヨタから寄贈を受けている。

APHT/The Wheel Factory

タイ障害者協会経営の車椅子工場。障害者の働きの中でもある。

月間150台の各種車椅子と同数のトライサイクル（足が不自由な障害者用に手でレバーを操作して2つの後輪を動かして進む前に荷台を持つ三輪車。）を生産し販売。

車椅子は4500パーツ、三輪車は5000パーツ程度。大半は障害者へ贈るために政府や団体が注文している。

車椅子を配布された障害児宅訪問

2月22日

Thichakam Kansiri 3歳男児 （写真左下）

生後6カ月の時に脳障害が見つかる。脳ジストロフィー。母親は現在19歳であり16歳の時に生まれる。当会の車椅子を受け取る前に使われていた粗末な椅子を見せてくれた。現在では車椅子に乗せて祖父が仕事をする田んぼにも連れて行けるようになった、と話してくれた。

重度障害者としての国の認定を受けて毎月500パーツの援助を受けている。



Thanapa Inyong 8歳女兒 (写真右上)

車椅子を受け取って週に3～4回のリハビリにも通えるようになったとの話。
背骨に障がいがあり矯正のために上半身を固定させるためにコルセットを着用しており、車椅子がちょうどフィットしていた。
父親はバンコクに出稼ぎに行っており、母親もいないため、親戚が世話をしており、近所の人達も積極的に援助をしている。
彼女も国の認定を受け毎月500バーツを支給されている。